

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 7 区分
 【発行日】平成 19 年 2 月 8 日 (2007.2.8)

【公開番号】特開 2004-224568 (P2004-224568A)
 【公開日】平成 16 年 8 月 12 日 (2004.8.12)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-031
 【出願番号】特願 2004-6963 (P2004-6963)
 【国際特許分類】

B 6 5 H 3/06 (2006.01)

【F I】

B 6 5 H 3/06 3 4 0 E

B 6 5 H 3/06 3 5 0 C

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 12 月 18 日 (2006.12.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ピックアセンブリと、トランスミッションと、前記ピックアセンブリと前記トランスミッションとの間に配置されたクラッチアセンブリと、前記クラッチアセンブリに設けた戻しばねとを備えた媒体取り扱い装置が媒体をスタックから取り出す方法であって、

前記トランスミッションを回転させることと、

前記トランスミッションを前記ピックアセンブリに係合させて前記ピックアセンブリを駆動させるため、前記クラッチアセンブリを作動させることと、

前記トランスミッションの前記回転によって、前記戻しばねにエネルギーを蓄積することと、

前記トランスミッションの前記回転を停止させることと、

前記停止させた後に、前記ピックアセンブリを前記スタックと接触しない方向に動かすのに、前記戻しばねの前記エネルギーを用いることとを有することを特徴とする方法。

【請求項 2】

前記クラッチアセンブリは、直径がある巻ばねを備え、

前記クラッチアセンブリを作動させることは、前記巻ばねの直径を縮小させることを有することを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記クラッチアセンブリを作動させることの後に、前記スタックと接触するように前記ピックアセンブリを動かすことをさらに有することを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

図 2 を参照すると、プリンタ 100 は、ピックアセンブリ 500 をさらに備える。ピックアセンブリ 500 は、ハウジング 504 を備える。ハウジング 504 は、第 1 の端部 506 および反対側に位置する第 2 の端部 508 を画定する。ピックアセンブリ 500 は、

ハウジング 5 0 4 内に収納されたハウジングトランスミッション 5 1 0 を備える。ハウジングトランスミッション 5 1 0 は、入力歯車 5 1 2、複数の遊び歯車 5 1 4、および出力歯車 5 1 6 を備える。ハウジングトランスミッションの入力歯車 5 1 2 は、概ねハウジングの第 2 の端部 5 0 8 付近にあるピクトランスミッション 1 7 0 のシャフト 1 8 2 に取り付けることができる。複数の遊び歯車 5 1 4 は、入力歯車 5 1 2 と駆動可能に連動することができる。ハウジングトランスミッションの出力歯車 5 1 6 は、遊び歯車 5 1 4 と駆動可能に連動することができる。ピックアセンブリ 5 0 0 は、ピックタイヤ 5 2 0 をさらに備える。ピックタイヤ 5 2 0 は、概ねピックアセンブリの第 1 の端部 5 0 6 付近にあるハウジングトランスミッション出力歯車 5 1 6 に取り付けることができる。本明細書中で後述するように、ピクトランスミッションシャフト 1 8 2 が回転することにより、ハウジングトランスミッション 5 1 0 を介してピックタイヤ 5 2 0 が回転する。ピックアセンブリ 5 0 0 は、キー 4 8 0 を用いてピックアーム管 4 2 0 と固定状態で連動することができることに留意するべきである。